

## ◇ 「中信ビジネスフェア2013」への出展による 栄養アセスメント・栄養相談

[はじめに]

毎年10月に京都中央信用金庫主催で地元企業、団体や大学、府、市などの研究機関による大商談会が開催されている。本年度はその第25回目に当たり、当施設としては7回目（栄養クリニック開設前年度から出展）の参加となる。今年は10月17日（木）・18日（金）に京都府総合見本市会館（パルスプラザ）展示会場で開催され、約200ブースを使用した異業種間での交流があり、大学関連の参加は約10校であった。見学来場者数は一般市民を含む約8,000人であった。栄養クリニックは1ブースを使用し、指導員1名、クリニックスタッフ1名、研究員1名と学生ボランティアは食物栄養学科3回生から3名、4回生から3名が参加した。

[参加目的と実施内容]

本ビジネスフェアの見学に来られた一般市民や企業の方々を対象に、栄養クリニックの開設目的やこれまでに実施したさまざまな活動事例をパネル媒体で紹介すると共に、今後予定されている事業紹介を行った。（下図左）また、健康維持や生活習慣病予防の市民への積極的な啓発活動の一環として、骨密度測定、ヘモグロビン測定、握力測定などを無料で実施し、これらの栄養アセスメント体験から各自の健康への関心を深めていただいた（下図右）。希望者には、結果説明や身長と体重の自己申告から体格指数（BMI）や理想体重（IBW）を求め、各自の健康管理に有益な食事と運動についての情報を提示した。また、個人的な栄養相談にも応じた。



ブース内の掲示物



骨密度などの測定と栄養相談の様子

ボランティアとして参加した学生は、将来病院や社会福祉施設などの管理栄養士を目指す学生であり、受付、測定の内容説明、測定実施と簡単な結果説明を担当した。初めての来訪者と気持ちよく対応でき、満足していただけるような接し方を実践で学び、この体験を通して専門職業人としてのコミュニケーション力を養い、管理栄養士の資質向上に役立てることをねらいとして参加してもらった。

## [成 果]

参加者は10歳代後半から90歳までと幅広く、2日間で約252名を受け付けた。そのうちの多くの方々が詳細な結果説明や栄養相談を受けられた。また、企業商談会のため、参加者の過半数が40～60歳代であり、一般市民の参加は高齢者が多かった。昨年度より若干増の利用があり、殆ど途切れることなく対応しなければならなかったが、これまでの経験からスムーズに対応することができた。測定値に問題がある方には、生活状況に応じた食事や運動を中心としたアドバイスを行った。「自分の骨量、貧血、体力、栄養状態を知ることができたので、来た甲斐があった」「聞きたいことがやっと聞けて、自分の食生活に自信が持てスッキリした」「医師には細かいことが聞けないが、具体的な食事の改善点が明確になった」などの感想をいただき、熱心にメモを取られる方もあった。また、毎年、ここでの測定を目的に来られる方や、テレビなどの情報を誤って理解されている方も多かった。主催者側からも「栄養クリニックさんの人気は高い」とのコメント頂き、栄養クリニックの認知が高まり、今年は栄養クリニックの個人相談の予約を出展中に2件いただくなど成果があった。

栄養相談の内容は、メタボ対策、糖尿病、高コレステロール血症、高尿酸血症、心臓病、胃腸障害、骨粗鬆症、腎症、貧血、リュウマチなどさまざまであった。

ボランティアとして参加した学生は、「始めは参加者との対応に緊張したが、参加者と色々な雑談をしている内に、緊張感がとれてスムーズに動けるようになった」、「一般の方の骨密度や貧血の測定と参加者とのコミュニケーションを体験することができたのは大きな収穫であった」、「長時間でしんどかったがとてもやりがいがあり、終わってみると楽しかった。今後もこのようなイベントに参加したい」、などの感想を残した。昼食のための休憩時間を利用して、京都の代表的な企業のブースを見学し、一堂で京都の企業を知ることができたことも収穫のようであった。

長時間の活動にもかかわらず、学生たちは終始笑顔で積極的な態度で好感が持てる対応ができていた。これからの管理栄養士は、アウトソーシングで実施される事業の中で活躍する場面も増えると思われる。自ら課題を設定し、企画・立案から実施、評価、課題を解決できる力が益々必要になってくると思われる。その場の状況に応じて臨機応変に対応する能力を身につけることは、社会人として活躍するためにも必要である。在学中に栄養クリニックの行事に積極的に参加し、その能力を培い、卒業後、即社会のニーズに応えられる実践力を身につけて欲しい。

(木戸詔子)